

目次

日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念全国大会

- [全国大会開催のお知らせ・大会実行委員長挨拶](#)
- [大会プログラム](#)
- [大会申込方法](#)
- [地区NEWS](#)
- [事務局だより](#)

全国大会開催のお知らせ・大会実行委員長挨拶

■ 日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念全国大会

大会テーマ

学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の新たな展開～10年目の起点～

日程

2015年7月4日(土曜)、5日(日曜)

場所

[福岡国際会議場](#)(〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1)

主催

日本学校ソーシャルワーク学会

共催

福岡県スクールソーシャルワーカー協会

後援

福岡県教育委員会・福岡市教育委員会・北九州市教育委員会(予定)

■ **ご挨拶**

日本学校ソーシャルワーク学会は、2006年3月に発足しました。当時はいくつかの自治体にてスクールソーシャルワーカー事業が開拓的に始動し始めていましたが、今後の発展を踏まえ学校ソーシャルワーク実践研究を活性化させる必

要件から学会を設立しました。

学会発足10年目を迎え、その間、2008年度には国の「スクールソーシャルワーカー活用事業」が開始し、学校ソーシャルワーク実践の必要性も小・中学校のみならず、高等学校やさらには大学にまで広がっていきました。また、子どもの貧困対策としてスクールソーシャルワーカーの増員が図られようとしています。

しかし、10年目の起点として、特別支援教育における学校ソーシャルワーク実践の必要性を研究及び検証していくことが求められています。スクールソーシャルワーカーの発祥地アメリカでは、1975年の全障害児教育法の制定においてスクールソーシャルワーカーがソーシャルワークサービスの提供者として位置づけられました。教育と福祉の協働を要する特別支援教育の子どもたちへの学校ソーシャルワーク実践は必要であると考えます。

そこで、10周年記念大会では、学校ソーシャルワーク実践の動向を振り返るとともに、今後の展開として特別支援教育に焦点をあてていきたいと考えています。ぜひ、多くの方々のご参加をお待ちしております。

日本学校ソーシャルワーク学会代表理事
第10回記念全国大会実行委員長
門田光司(久留米大学)

■ 大会プログラム

■ 大会事前企画～基礎研修・専門研修～※受講者には証明書を発行(2015年7月4日(SAT))

TIME SUMMARY

9:30 受付開始

9:50- 11:50 A) 基礎研修「スクールソーシャルワーカーに求められるもの～学校現場が期待するスクールソーシャルワーカー～」

- 講師:
 - 丸山涼子(大阪府寝屋川市立和光小学校元校長)
 - 森原清(山口県周南市立和田中学校校長)
- コーディネーター:
 - 佐々木千里(京都市教育委員会等SSWスーパーバイザー、日本学校ソーシャルワーク学会理事)

【研修のねらい】

いじめや子どもの貧困への対応策として、今後はより多くのスクールソーシャルワーカーが学校現場で活動し始める状況にあります。スクールソーシャルワーカーの効果的な活用のためには、学校が「スクール(学校)ソーシャルワーク」を理解することが重要とされていますが、同時にスクールソーシャルワーカーの側も「学校」を理解し、子どものためにより良い教育活動をめざす「学校の二重」に伝えるべく、現場で役立つ力を身につけておかななくてはなりません。

10周年記念の本大会の基礎研修では今一度基本にもどり、学校運営の立場から「学校現場が期待するスクールソーシャルワーカー」について語っていただき、あらためて「スクールソーシャルワーカーに求められるもの」について考え、学びを深める機会としたいと思います。

- 【受講資格】 特になし(※非会員の参加可)
- 【定員】 80名(※先着順)
- 【受講料】 1,000円

B) 専門研修「服薬する子どもとその保護者への対応」

- 講師:原田 剛志(パークサイドこどものこころクリニック院長精神科医)
- コーディネーター:比嘉昌哉(沖縄国際大学准教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事)

研修のねらい

学校ソーシャルワーク実践において困難事例の一つをあげるとするならば、子どもが服薬を必要とするケースではないでしょうか。服薬を要するケースでは、校内での支援にとどまらず、医師をはじめとする医療機関等との連携をもとに支援を進めていかなければなりません。本研修では、服薬する子ども本人やその保護者への支援を考えていきます。児童精神科医である原田医師が日々の実践を通して、医療や服薬に対して先入観や偏見をもつ当事者(子どもや保護者)へどのように関わり(治療・支援)を行っているのかについてわかりやすく解説します。具体的には、「子どもの薬をどのように保護者に伝えるか」「保護者らの抱える偏見への対応」等について学ぶ機会にしたいと考えています。

- 【受講資格】 学会員(※非会員の参加不可)
- 【定員】 50名(※先着順)
- 【受講料】 1,000円

申込期限までに、参加申込書(別添)を大会事務局にFAXまたはメール(PDF)で送信していただくか、受講申込メールを送信(※1)のうえ、大会参加費の振込時に、「〇〇研修受講料1,000円」と明記して、他の参加費と併せて指定口座に入金してください。

※1)申込専用Email:k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp

※2)メール内容 ①件名:〇〇(基礎もしくは専門)研修申込、②本文:氏名、所属、連絡先(住所および連絡可能な電話番号)を明記してください。内容に不備がある場合は受け付けない場合がありますのでご注意ください。

【注意】

基礎研修、専門研修ともに定員に達した段階で募集を終了します。そのため、期限内に申し込みをされた方でも受講できない場合があります。大会事務局または学会ホームページ等で募集状況を確認のうえ、受講申込を行ってください。

■ 本大会初日～開会式・基調報告・大会シンポジウム他～(7月12日(SAT))

TIME	SUMMARY
12:50	受付開始
13:10	開会式
13:20-14:20	【基調講演A】「学校ソーシャルワーク実践の動向～全国調査結果の報告～」 岩田美香(法政大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事)
14:30-15:10	【基調講演B】「スクールソーシャルワーカーの組織化を図る～福岡県スクールソーシャルワーカー協会の活動を通して～」 奥村賢一(福岡県立大学准教授、福岡県スクールソーシャルワーカー協会副会長)
15:20-17:10	【大会シンポジウム】「特別支援学校における学校ソーシャルワーク実践の必要性」 ● シンポジスト ● 松原大洋(福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校校長) ● 樋口陽子(北九州市小倉南特別支援学校統括コーディネーター) ● 下田学(九州工業大学キャンパスソーシャルワーカー) ● コーディネーター ● 門田光司(久留米大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会代表理事)
17:20	年次総会
18:00-20:00	情報交換会 福岡国際会議場1FレストランRACONTER(ラコンテ) 立食パーティ形式(定員90名 ※先着順) <注意事項> 申し込みは事前予約のみの受付となります。定員に達した時点で募集を締め切ります。

■ 本大会2日目～口頭発表・課題別分科会～(7月5日(SUN))

TIME	SUMMARY
9:00	受付開始
9:30-12:10	【口頭発表(研究発表・実践発表)】 ● 口頭発表は、「研究発表」と「実践発表」に分けて実施します。 ● 発表時間20分、質疑応答15分、計35分 ● 発表申込締め切り5月25日(月)必着 ※申込方法は、下記(7.口頭発表)の応募要領をご確認ください
12:00-13:30	昼食(世話人会・院生交流会)
13:30-15:30	【課題研究分科会】 第1分科会「児童生徒のいじめや校内暴力への対応を考える」 【趣旨】 いじめ防止対策推進法制定以降、いじめの被害者への対応に加えて、加害者への対応や、日常的に暴力をふるう児童生徒への指導・支援の強化が求められ、スクールソーシャルワーカーへの期待が高まってきています。この分科会では、いじめの加害行動や問題行動などについて、ミクロからマクロまでを視野に入れ、どのように理解し、支援し、連携していくかを考えたいと思います。

今回は、学校のとらえた問題行動についてどのような対応をとる必要がある、実際にとり得るのかについて理論的整理を行ない、具体的な対応として、学校や教育委員会、児童相談所や家庭裁判所などのなすべきことを明らかにし、それを生かす形でのSSWとしての活動のあり方について、フロアを交えて議論していきたいと思います。

第2分科会「子どもの貧困対策とスクールソーシャルワーカー」

【趣旨】

子どもの貧困が深刻化する中、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が平成25年に制定されました。そして昨年、子どもの貧困対策を総合的に推進するために、「子供の貧困対策に関する大綱」が策定されています。

この大綱では、「学校」を子どもの貧困対策のプラットフォームと位置付け、総合的に対策を推進することがひとつの方針として掲げられています。ここでは、貧困家庭の子どもたちを早期に福祉等につなげることや、家庭への支援等がスクールソーシャルワーカーに期待されています。

このような状況下、スクールソーシャルワーカーはどのような役割を果たすことができるのでしょうか。また、その専門性を活かし、どのような役割を果たすべきなのでしょう。貧困対策が学校・教育に重点化されている前提も含め、多様な視点から検討する機会にできればと思います。

第3分科会「生活の困窮と学習支援～夜間中学校や定時制・通信制高校の取り組みから～」

【趣旨】

これからの生活困窮や生活保護の支援法制との関わりから、高校(定時制・通信制を含む)を実践の場とするソーシャルワークの役割やその実践的意味について考えます。

「もし、もっと早い段階で寄り添ってくれる人や居場所があればよかったのに」という高校現場の苦悩の声は、学校教育から実社会への結節点を保障するというのみならず、高校以前の教育活動を私たちが振り返る「内省」の根拠となります。高校段階のソーシャルワーク実践は今後のスクールソーシャルワーカーの取り組みに与える影響は大きいと考えます。本分科会では、生活困窮者自立支援制度による高校生の学習支援や就労準備、就労訓練の事業と高校実践の現状と、教育福祉や学校におけるソーシャルワークの歴史的原点の1つとなる夜間中学校の今日的現状から、生活福祉に根ざした学校ソーシャルワークの課題を掘り下げたいと思います。

第4分科会「学校ソーシャルワーク実践におけるコンサルテーションの意義と課題」

【趣旨】

教員へのコンサルテーションは、スクールソーシャルワーカーの日常的な業務の一つであり、学校へのアプローチとして重要な意味をもっています。しかし、スクールソーシャルワーカーの側には、これはコンサルテーションだと意識している人もいでしょうし、あまり意識せずにコンサルテーションを行っている人もいかもしれません。もしかしたらそれぞれ捉え方にも違いがあるのかもしれない。

そこで、本課題研究では、学校ソーシャルワーク実践におけるコンサルテーションがより効果的であるよう企画しました。スクールソーシャルワーカーとコンサルティである教員それぞれの立場から話題提供をしていただき、コンサルテーションの意義、学校のニーズに適したコンサルテーションの共通項、コンサルテーションの実践上の課題等について、フロアとともに議論を深めていきたいと思います。

第5分科会「特別支援教育と学校ソーシャルワーク」

【趣旨】

2007(平成19)年4月に、学校教育法等の一部改正が行われ、「特別支援教育」が本格的にスタートしました。従来の「特殊教育」の障害の種類・程度に応じた特別な場での指導から、一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援へと教育の考え方の転換が行われました。特別支援教育では、教育、医療、福祉、労働などの関係者や保護者と情報を共有し長期的な視点から支援を検討することになっています。特別支援教育の推進役として各学校には特別支援教育コーディネーターが配置されていますが、他の校務と兼務しながら行われているのが現状です。特別支援教育コーディネーターが、学校ソーシャルワークの視点を持って支援をするために必要なことは何か、あるいはスクールソーシャルワーカーと役割を分担し協働していくためにはどのような方法があるのか、などについて意見交換を行い議論を深めたいと思います。

15:30 終了 ※各分科会会場にて終了

大会申込方法

1.参加費

1)研修

- 基礎研修(定員80名):1000円
- 専門研修(定員50名):1000円 ※会員のみ

注)両研修ともに定員となり次第、受付を終了いたします。

2)大会(2日間)

- 会員:3000円(事前申込)、4000円(当日申込)
- 非会員:3500円(事前申込)、4000円(当日申込)
- 学生・院生:1000円(事前申込)、1500円(当日申込)

3)情報交換会

- 参加費:4500円(会員・非会員・学生・院生)

※情報交換会は事前申込のみの先着順とし、定員(80名)となり次第、受付を終了いたします。

1)~3)の事前申込及び口座振込期限・・・6月19日(金)

※参加費は、下記の指定口座にお振り込みください。

<研修・全国大会・情報交換会の参加費払込口座番号>

【郵便振替】 日本学校ソーシャルワーク学会 01700-4-163825

※1)郵便局振込用紙の備考欄に必ず入金内容(研修費・大会参加費・情報交換会費)、氏名、住所、所属、電話番号を記載し、上記の口座番号に振り込んでください。

※2)他行等からの振込の受取口座として利用する場合

- 店名(店番):一七九(イチナナキユウ)店(179)
- 預金種目:当座
- 口座番号:0163825

6.交通アクセス

[福岡国際会議場](#)(〒812-0032 [福岡市博多区石城町2-1](#))

TEL:092-262-4111

FAX:092-262-4701

[福岡国際会議場webサイト交通アクセスのページ](#)

7.口頭発表(研究発表・実践発表)

口頭発表(研究発表・実践発表)の申し込みを希望する会員は、下記応募要領にて発表原稿を作成のうえ、5月25日(月)までにE-mailにて原稿データを[太会事務局](#)まで送付してください。

応募要領

1. 発表者の応募資格

1. **応募の時点で本学会の会員(2015年度までの学会費納入者)の資格を有する者。**
2. 共同発表の場合は、応募の時点で1名でも1)に該当しない場合は、申し込みを受理することはできません。
3. 発表応募者(共同発表者を含む)は、**6月19日(金)まで**に大会参加費の振り込みを完了してください。
※1)から3)の条件を充たさない場合は、発表を取り消すことがあります。

2. 発表の応募方法

1. 大会事務局まで参加申込書(別添)を大会事務局にFAXまたはメール(PDF)で送信していただくか、同様の内容をメール(k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp)にてお申し込みください。
2. メールで申し込みをされる場合は、①件名:口頭発表申込、②氏名、③所属、④連絡先(住所及び連絡可能な電話番号)、⑤発表種類(研究発表・実践報告)、⑥題目、⑦共同発表者氏名(単独の場合は不要)、⑧パソコン使用の有無を明記して送信してください。

3. 発表原稿(要旨)作成上の留意事項

1. 口頭発表は、1会員1演題に限りです。そのため、応募については必ず筆頭発表者が行うようにしてください。
2. 同一テーマによる発表は、「その(1)」「その(2)」までとします。ただし、内容が別の研究と認められる場合に限りです。当日の発表においても、各々が独立した発表として行うため、時間を連続して発表を続けることはできません。
3. 口頭発表は、**自らの研究の成果を発表する「研究発表」と自らの実践内容を発表する「実践発表」**の2種類とします。発表応募者は、発表の種類を選択したうえで発表原稿を作成してください。
4. 要旨は学術的文献として公表されます。内容を十分に吟味したうえで、研究発表については、原則として、研究の目的、方法、倫理的配慮、結果、考察、結論等の各項に分けて記述してください。この形式で作成されていない発表原稿については、発表を認めない場合もあります。

5. 口頭発表の可否は、理事会の審査で決定されます。その際、要旨の内容により、発表の種類を変更してもらった場合があります。
6. 研究倫理上の問題がある発表や個人の著作販売を目的とする発表等は、発表後であってもそれを取り消す場合があります。
7. 口頭発表が決定した後、急なキャンセル等をされないように留意してください

4. 発表原稿(要旨)の作成要領

1. 原稿用紙

要旨は、A4版2ページで作成してください。字数は目安として、本文3,358字(23字×146行)となります。本文とは別に、文頭6行を題目・発表者氏名・所属機関・キーワードを挿入してください。具体的な記載例は、「[発表原稿の書式](#)」を参考にしてください。なお、連名発表者がある場合は、筆頭発表者氏名の前に○印を付けてください。また、本文の最後に発表者氏名をローマ字にて記載してください。

2. 図・表

図と表は最小限に止め、写真は使用しないようにしてください。

3. 事例

事例等の記述については、プライバシー保護の観点から、関係者からの承諾等の基本的な倫理規定を遵守してください。なお、要旨には倫理的配慮の内容を明記してください、記載内容が不十分な場合や記述がない場合は、発表が採択されないことがあります。

5. 発表原稿(要旨)の送付方法

発表原稿は、Wordで作成したものを[大会事務局](#)までメールで送付してください。なお、**PDFファイルでは送付しないように注意してください。**

大会に関するお問い合わせ

第10回記念大会事務局

〒825-8585 福岡県田川市大字伊田4395番地

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科奥村賢一研究室(担当:奥村)

TEL/FAX:0947-42-1425

メールアドレス:k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp

地区NEWS

※全国の地区活動を中心にお伝えします

2014年度日本学校ソーシャルワーク学会 北海道地区研修会

北海道地区世話人 高野和美(札幌市教育委員会)

9月13日、北星学園大学にて「2014年度北海道地区研修会」を開催いたしました。今回のテーマは「教諭とスクールソーシャルワーカーの臨床力向上と協働の方法～非行問題を抱える子どもと家族への支援～」とし、SSWrのみならず、小・中・高等学校教諭、養護教諭、児童福祉分野のソーシャルワーカー、フリースクールスタッフ、学生など約80名の参加があり、非行問題への関心の高さが伺えました。

前半は立命館大学の野田正人先生から、非行問題への対応の基本姿勢・アセスメント・介入的支援についてなど具体的かつ実践的な講演をいただきました。また後半のシンポジウムでは、北海道立向陽学院施設長の梶原敦氏、伊達高等学校教諭の大地豪氏、北海道教育委員会SSWr澤伊三男氏に登壇いただき、子どもや家族が抱える課題の共有や支援のあり方について考える機会となりました。

非行問題の背景には児童虐待問題が大きく影響しているとお話に、早い段階で問題に気づき対応していくことの重要性を再認識し、「問題行動の背景を見た対応」「先を読んだ対応」という意識をしっかりと持ち、実践していくことの大切さをあらためて学ぶことができた研修会となりました。

平成26年度日本学校ソーシャルワーク学会 東北部会

日本学校ソーシャルワーク学会理事 東北地区世話人 鈴木庸裕(福島大学)

昨年、12月6日、仙台市民会館において「東北における学校ソーシャルワークの広がりを目指して」をテーマとして開催した。震災後の緊急派遣事業の一環としてスクールソーシャルワーカーの導入や拡大が進むなかで、いじめ防止対策や貧困問題に対応する役割も求められている。

今回の構成は、「子どもを守るために知っておきたい法的なこと」と題した学習講演(伊東満彦弁護士・仙台そよがぜ法律事務所)、そして2つの分科会「小・中学校部会」(報告者・山本操里氏)と「高校部会」(報告者・伊藤美奈氏、朝日華子氏)であった。学校ソーシャルワークにおける法的理解への広がりや、これからの教育と福祉をつなぐ結節点となり、また、小中学校での実践の積み重ねをめぐる検証、そして各地で導入がはじまった高等学校での実践課題の共有が今後大切な課題となると思われる。

日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄部会 第7回研究大会

去る1月31日に、九州沖縄部会研究大会が熊本県で開催されました。今回の研究大会に掲げたテーマは「Life」。学校ソーシャルワークの現場は、小・中学校、高校、そして大学と広がりを見せています。

そこで、大学におけるキャンパスソーシャルワーカーに焦点を当てつつ、学校ソーシャルワークを児童期から思春期青年期にかけての幅広い視点で捉え、その時その時の子ども達の「生活」や「人生」に寄り添いながら、「生きる」ことへの関わりについて考えていきたい、と企画しました。開催にあたり、啓発活動も兼ね、九州各県の全大学へも案内文書を配布しました。

当日は、九州沖縄各県から約60名の参加がありました。前半は、福岡県志免町や福岡県協会の取り組み、事例について実践報告があり、後半は「キャンパスソーシャルワーカーとLifeを考える」というテーマでシンポジウムを行いました。そこでは、大学での体制づくりや、各大学での特色とそれに対するキャンパスソーシャルワーカーの役割などが報告され、ディスカッションでは、スーパービジョン体制や、他大学のキャンパスソーシャルワーカー同士の交流をどう図っていくか、などの課題が提起されました。

私自身、ドキドキしながらコーディネーター役を務めさせていただきましたが、ライフステージは違えど、そこで関わっていくワーカーは、まずどのような体制の中でソーシャルワークを展開していくのが関わりに大きく影響し、そして、スーパービジョン体制がワーカーの力を支えていくものなのだと思えて気づかされました。また、ソーシャルワークの広がりや可能性を感じることができました。最後に、大会終了後に行われた情報交換会では、九州各県で活躍している仲間たちと交流が持て、明日への活力へととなりました。これからもソーシャルワーカー同士のつながりを大事に、研鑽していきたいと思えます。

事務局日より

1. 理事会報告

去る2014年10月12日(日)に東京(アットビジネスセンター-東京駅)で第2回理事会が開催されました。当日の理事会の概要については、下記のとおりです。

- 出席者:8名(欠席者4名)
- 時間:11時00分~15時00分
- 議題:
 1. 日本学校ソーシャルワーク学会第9回大会総括
 2. 第10回記念大会プログラムの検討
 3. 新規入会者および退会者の審査等
 4. 全国実態調査の進捗状況に関する報告及び実施課題に関する協議
 5. 学会設立10周年記念誌刊行に向けた協議 他

※次回、第3回理事会…2015年3月27日(金)福岡にて開催予定

2. 会員報告

- 会員数:445名(2015年2月27日現在)
- 新入会員:4名

※当学会への新規入会希望者を対象に行う入会審査は、原則として年3回の理事会にて行います。理事会は例年7月(全国大会前日)、10月、3月(常任理事会)に実施しています。推薦人となる会員の皆さまも予めご留意ください。

3. 【重要】第4期理事選挙実施のお知らせ

日本学校ソーシャルワーク学会会則第15条任期満了に伴い、第4期理事選挙を行います。有権者(2014年度分までの年度会費を完納者ならびに2015年度新規入会者〔4月30日現在〕)には、選挙管理委員会より5月上旬に選挙要領が発送されます。投票期間は、5月11日から5月25日(必着)を予定しています。よろしく願いいたします。

4. 2014年度会費納入のお願い

今回、2014年度会費(過年度分も含む)未納の会員には、振込用紙を添付しております。年度内に指定口座へ振り込みを完了してくださいませよう、円滑な学会運営にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。なお、ご不明な点がありましたら、お気軽に学会事務局までご連絡ください。

5. 会員情報に関する変更手続き

[学会ホームページより「記載事項変更届」がダウンロードできるようになりました。](#)所属先や住所等に変更がある方は、「記載事項変更届」に必要事項をご記入のうえ、学会事務局に郵送またはFAXをしていただくか、変更内容に関する情報をメールにてお知らせください。

6. 学会メーリングリストのご案内

当学会では、これまで希望する会員を対象にメーリングリスト(以下、ML)を用いた情報配信サービスを提供してきました。しかし、2014年5月にYahoo!グループのサービスが終了することに伴い、理事会ではMLを廃止して新たに事務局配信メールマガジンを新設することになりました。メールマガジンでは、主に①事務局だより(学会活動に関する諸連絡および情報提供等)、②会員掲示板(各地域で行われる研修や行事等に関する諸連絡および情報提供等)を配信していきます。なお、このメールマガジンは希望者対象のサービスであるため、配信を希望する会員は事前に登録していただく必要があります。登録方法については、下記をご参照ください。メールマガジンは不定期ですが、月1回程度の配信を考えています。

1)メールマガジン配信希望者

メールマガジン配信希望者は、[学会事務局アドレス](#)に登録希望メールを送信してください。送信していただくメールには、件名に「学会メールマガジン配信希望」と記していただき、本文では必ず氏名を入力してください。学会事務局でメール受信ならびに諸手続が終わりましたら、登録完了のメールを学会事務局より送らせていただきます。

2)メールマガジンへの情報掲載希望者

これまでMLにて会員の皆さまから発信していただいた種々の活動に関する情報提供や告知等は、引き続き会員相互で共有していきたいと考えております。今後は学会事務局がそれらの情報を一度集約したうえで、メールマガジンで配信するとともに、学会ホームページ上においても地区ニュース欄等で情報を掲載していきたいと考えております。メールマガジン及び学会ホームページでの情報配信を希望される方は、[学会事務局のアドレス](#)までメールを送信してください。①件名には「学会メールマガジン情報掲載依頼」と記してください。②本文の最後には情報発信者の氏名と所属を記してください。③学会ホームページへの情報掲載希望の有無について記してください。なお、掲載情報については、必要に応じて文章を加筆修正することがありますので予めご了承ください。また、学会ホームページへの情報掲載については、数日の時間を要する場合もあるため、急を要する依頼にはお応えできないことをご理解いただいたうえで、ご対応をよろしくお願いいたします。

7.全国実態調査ご協力のお願

今年度、当学会ではスクールソーシャルワーカー全国実態調査を行います。これは、2011年1月に発刊した「学校ソーシャルワーク研究(報告書)-スクールソーシャルワーカー配置に関する全国自治体調査報告書【※完売】」の第2弾となるものです。スクールソーシャルワーカーとして活動されている会員の皆さまのご所属先には、追って本調査の担当者から連絡が入るかと思われます。必要に応じて皆さまにご協力いただくこともあるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 学校ソーシャルワーク文庫 Vol.2

※学会に献本された書籍をご紹介します

教育臨床への学校ソーシャルワーク導入に関する研究 増補版

- 岩崎久志 著
- 出版社:風間書房(2014/4/4)
- 単行本:252頁
- 価格:7,800円(+税)

教育病理の打開に向け福祉の視点からの挑戦というパースペクティブから、わが国の教育臨床に学校ソーシャルワークに基づく子ども支援のシステム構築を試みた、初版より13年を経て新たな論考を加え刊行。

日本学校ソーシャルワーク学会事務局

〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科奥村賢一研究室気付
TEL・FAX:0947-42-1426
発行責任者:奥村賢一(日本学校ソーシャルワーク学会事務局長)